

# ほんばこ



愛媛県立今治西高等学校図書委員会 2024

毎日暑いですが8月には貴重な夏休みがありますね。1・2年生の多くの部活動が新チームとしていろいろなことを考えたり、3年生は自分の進捗を見つめつつ、周りから刺激を受けていたりすることと思います。読書で息抜きしながら、有意義な時間を過ごしましょう！

8月(葉月 はづき 秋風月 あきかぜづき 仲秋 ちゅうしゅう)

\*\*二十四節気\*\*

立秋 りっしゅう 7日

初めて秋の気配が現れてくる頃です。暦の上では秋になるが、実際には残暑が厳しく1年で一番暑い時期です。

処暑 しよしよ 22日

暑さが峠を越えて過し易くなり始める頃です。二百十日、二百二十日と並んで台風襲来の警戒日と言われています。

## 図書委員からお薦めの本

『ヒトデはクモよりなぜ強い』

オリ・ブラフマン、ロッド・A・ベックストーム 著 糸井恵 訳 日経 BP

みなさんはこのタイトルを見てどうしてヒトデのほうが強いのかわかりますか。また、自分の組織を成功させたいと考えたことはありますか。この本では、組織を大きく2つに分けて想像しやすい実例を交えながら、成功している組織(Amazon)などと、そうでない組織の違いについて書いています。人間関係で悩んでいる人、あるいは、小説は好きだけでも論説文は苦手という人には共感できるポイントが多くあり、読みやすいのでぜひ読んでほしいです！

(3年 女子)

## 令和6年度 青少年読書感想文コンクール 課題読書部門 課題図書 紹介

青少年読書感想文全国コンクール課題読書部門課題図書

- 1 伊予原新 『宙わたる教室』 文芸春秋 2023年10月
- 2 ファン・ヨミ (キム・イネ訳) 『優等生サバイバル：青春を生き抜く13の法則』 評論社 2023年7月
- 3 太田ゆか 『私の職場はサバンナです！』 河出書房新社 2023年5月

夏休みを利用して、どんどん本を読みましょう。そして、それを文章で表現してみましょう！！

## 夏季休業中の図書館利用について

時間 11:30~16:30

※8月5日(月)~16日(金)は閉館します。

返却日 8月26日(月)まで

貸出冊数 4冊まで(返却すれば何冊でもOK)

\*希望する本が重複する場合があります。読み終わったら、早めに返却をしてください。



## 先生方のおすすめされる本をご紹介します！

今月は、英語科の先生です！

毎年12月にその年に読んだ本からベスト10を決める、という試みを個人的にやっている。決めただけからといって発表する予定はないので、完全に自己満足なのだが、1年間の読書記録を見返すという作業は味わい深いものであり、なんとなく続けている。(友人によれば、読書記録をつける、という行為自体が特異なことであるらしい)。ベスト10を決められる程度に、私は本を読むことが好きだ。1カ月に大体10冊は絶対に読む。休みの日の予定は？と聞かれても「本を読む(か、もしくはジムに行く)」しか答えられない。お気に入りの書店があり定期的に通う。毎月の本代を決めている(そうしないと買い過ぎてしまう)。つまり何が言いたいかというと、以下に紹介する3冊は私が選び抜いたものなので、興味が少しでもあれば読んでほしい。読んで後悔はしないと思う。

### ① 『受験脳の作り方 脳科学で考える効率的学習法』(池谷裕二) 新潮文庫

受験と書いてあるが、受験勉強に限らない。脳科学的観点からどのように勉強したらよいか読みやすい文体で書かれている。受験生必読の書といえば『思考の整理学(外山滋比古、ちくま文庫)』が有名だが、あれはどちらかというとな系向けかなと思うので、理系の方はぜひこちらを読んでほしい。

### ② 『サード・キッチン』(白尾悠) 河出書房新社

昨年、ベスト10入りを果たした一冊。留学先のアメリカで孤独な日々をおくる19歳の尚美を救ったのは、多様な生徒が自ら運営する学生食堂(サード・キッチン)との出会いだった、というのがあらすじに書かれている内容。今年の東大の英語の入試問題にも扱われていた『マイノリティ』がテーマである。

### ③ 『春期限定いちごタルト事件』(米澤穂信) 東京創元社

夏期限定トロピカルパフェ事件、秋期限定栗きんとん事件(上下巻)、冬期限定ボンボンショコラ事件、番外編の巴里マカロンの謎と、米澤穂信の〈小市民シリーズ〉は計6冊刊行済み。最新作『冬期限定〜』は4月末に発売されたばかりで、私はこの発売を2009年からずっと待っていた(サイン会にも行ったほど)。今年の7月にアニメ化予定。

最近読んだ本だと、やはり『成瀬は天下を取りに行く』(宮島未奈)は抜群に面白かった。些細な悩みなど、一瞬で消し去ってしまえる爽快感がある。以前に担任をしたクラスでR-1に毎年参加していた生徒がいたのを思い出した。一方で、今まで読まず嫌いであった万城目学を今になって読み進めている。今のところの一番は『鴨川ホルモー』(試合に負けたら「ホルモー」と叫ばなければならない)ではあるが、これから更新されるかもしれない。

上記に紹介した本たちは、あくまで初心者向けなので、既に読書好きであれば、出久根達郎の『古本奇譚』や野呂邦暢『夕暮れの緑の光』といった私の随筆のお気に入りたちを手にとってみてはいかがだろうか。私は英語科教員なので、英語の本や、翻訳本、日本語以外で創作活動をしている日本出身の作家など、様々な本を紹介したかったと思いつつ、それはまたの機会にしたいと思う。

御協力いただき、本当にありがとうございました。みなさんもぜひ読んでみてください！